

メインシンポジウム1

日時：2022年6月11日（土）10:15-11:45

【診断戦略開発カンファレンス（DSDC）】

<企画責任者> 志水 太郎（獨協医科大学総合診療医学）

座 長 志水 太郎（獨協医科大学総合診療医学）

座 長 原田 拓（練馬光が丘病院 総合診療科）

プレゼンター 山里 一志（獨協医科大学病院総合診療科）

<企画概要>

2015年のNational Academyの報告に代表されるように、医療の質を考える上で診断の質はプライマリケアにおいて中心的なトピックの一つであり、多くの医療者が注目している。2021年12月号のJAMAでも改めて宣言された「卓越した診断（Diagnostic Excellence）」のキーワードは2020年代に突入した世界の医療イニシアチブを推進する重要ワードになるだろう。そして2022年、大橋大会長率いられる本大会のタイトルは「プライマリ・ケアの真の価値を考える」そして「さまざまな立場・環境をつないで」である。このテーマは診断領域においても極めて重要である。診断の営為がプライマリ・ケアの価値の一端を担うことは異論がないだろう。その上で医師の思考だけではない様々な立場や環境（診断領域では状況性（situativity）と呼ばれる）、たとえば患者や患者を取り巻く環境、さまざまな医療職との連携や全体のコンテキストなどを多面的に考慮し、集合知で質を高めていくことが、これからのDiagnostic Excellenceの達成に必須の要素となる。本セッションでは、“様々な立場・環境をつなぐ”という視点から、診断の集合知を深めたい。診断がトピックとなる症例提示を元に、診断戦略開発カンファレンス形式（症例パート前半、リフレクションパート後半）でシンポジストらに最適な診断思考の開発の振り返りを行っていただく。オンサイトセッションであり、フロアからの様々な職種の皆様のご参加も大歓迎です。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

メインシンポジウム2

日時：2022年6月11日（土）14:45-16:45

【コロナで再認識されたプライマリ・ケアの重要性】

- <企画責任者> 大橋 博樹（医療法人社団家族の森 多摩ファミリークリニック）
- 司 会 大橋 博樹 （医療法人社団家族の森 多摩ファミリークリニック）
- 司 会 井伊 雅子 （一橋大学国際・公共政策大学院）
- シンポジスト 小林慶一郎 （慶應義塾大学経済学部 教授）
- シンポジスト 土居 丈朗 （慶應義塾大学経済学部 教授）
- シンポジスト 森山美知子 （広島大学大学院医系科学研究科）
- シンポジスト 鈴木 富雄 （大阪医科薬科大学地域総合医療科学寄付講座）
- シンポジスト 南郷 栄秀 （社会福祉法人聖母会 聖母病院）
- シンポジスト 草場 鉄周 （日本プライマリ・ケア連合学会理事長）

<企画概要>

新型コロナウイルス感染症の医療提供体制において、かかりつけ医は十分機能しなかったという問題点が指摘されています。なぜ、発熱外来に受診できない人が増えてしまったのか？自宅療養者へのケアにおける本質的な問題点は？保健所や行政にかかりつけ医はどのような協力ができるのか？高齢者療養のあり方は？など、この感染症は、私たちにかかりつけ医のあり方やプライマリ・ケアの重要性について、様々な問題を突きつけました。本シンポジウムでは、「コロナで十分機能しなかったかかりつけ医の問題、そしてそれを解決するためにかかりつけ医やプライマリ・ケアはどうあるべきか」という問いに対して、医療の視点のみならず、経済や社会的な視点も踏まえて、幅広い議論を展開していきます。シンポジウムの皆さまの討論を中心に、フロアからのご意見も伺いながら、明日から解決できる方法とともに、将来に向けた展望についても共通理解を深めて参ります。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜